

No.	16-6-1	場所	豊丘村福島 壬生沢川	次世代への継承キーワード
名称	壬生沢川からの土砂に埋まった農地			災害現象理解
災害現象	農業被害			河川 壬生沢川
補足事項				支流

## 概要

本来は梅雨の盛りのはずだが、田植えどころか水田の代かきもできないほど、春先からの少雨で水枯れの状態が続いた1961年（昭和36年）6月。ところが、23日夜から降り出した雨は「お湿り」どころか徐々に勢いを増し、下伊那郡豊丘村でも雨水を吸い込んだ山肌の土砂が部分的に大きな被害をもたらした。

中でも、県道伊那生田飯田線から4キロほど東側の山あいにあった河野地区の二丁集落では、27日午後の山崩れをきっかけに電灯が消え、村からの情報も途絶えた。土砂交じりで濁流と化した間沢川は、一晩の間に農地を根こそぎ飲み込み、川べりの幹線道路を全てえぐり取ってしまった。

●体験談：災害当時、豊丘村小園に在住の方

<6月28日の朝、川の様子を見に行ってみると>壬生沢川が大氾濫で、ほうぼうの洞から押し出した土砂で、堤防はずたずたに切断され、周辺の田んぼは一面土砂で埋っておりました。

（「豊丘村 三六災害」p.106）

## 記録



壬生沢川からの土砂に埋まった農地

出典 「豊丘村 三六災害」p.106

備考 概要欄の< >は編者が補足説明したものです。

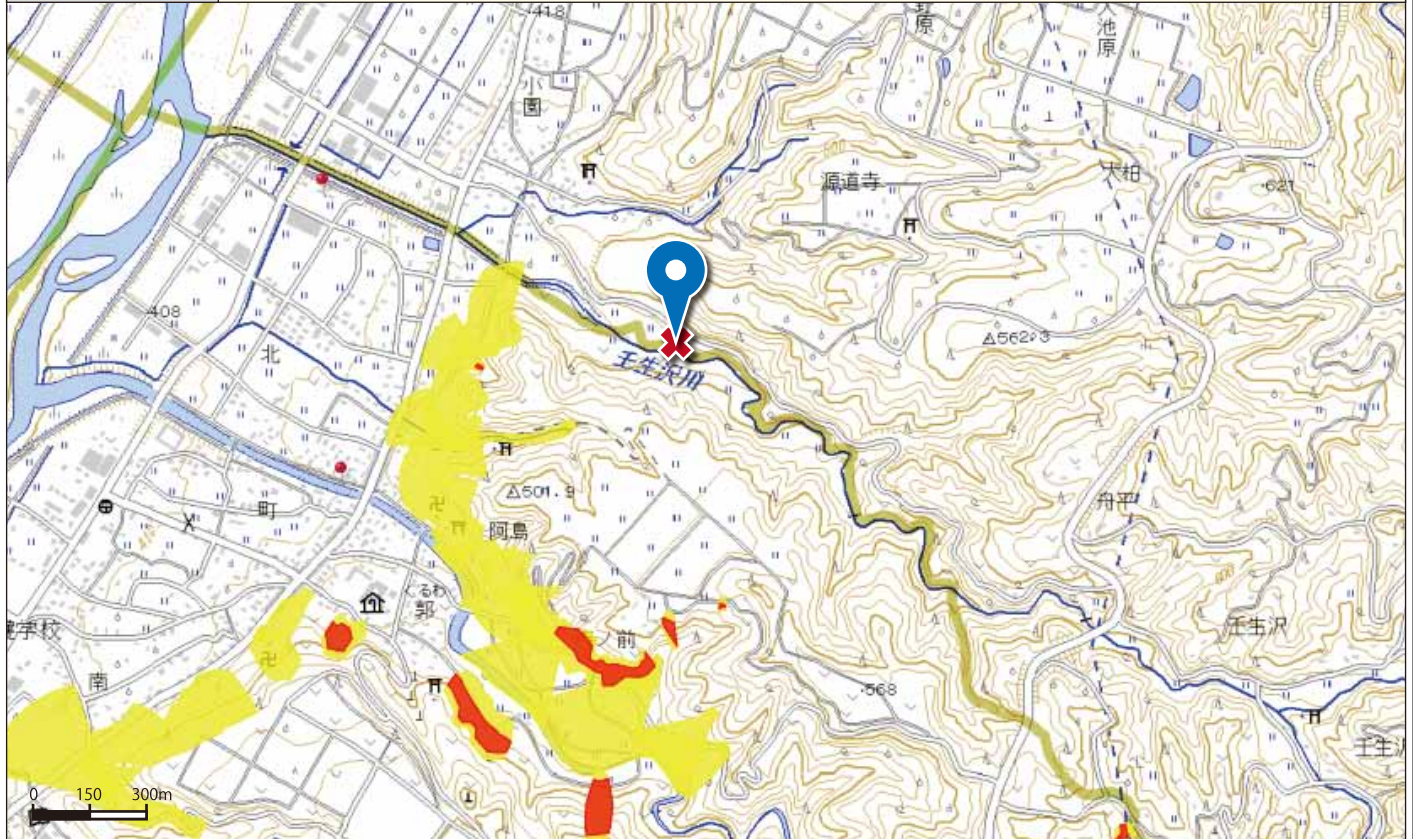
No.	16-6-1	場所	豊丘村福島 壬生沢川	緯度	35.525693
-----	--------	----	------------	----	-----------

名称	壬生沢川からの土砂に埋まった農地	経度	137.891818
----	------------------	----	------------

地図 広域図



地図 詳細図



備考 上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通用：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。